

佐用町の「ホルモンうどんくわせ隊」や「新長田TMO(※)」など、兵庫県内13の団体が加盟しているよ。佐用町は10年前から過疎・高齢化・人口減少への取り組みとして、新長田は阪神・淡路大震災から5年目にぼっかけによる復興への取り組みとして、情報を共有し、街を元気にしていこうとネットワーク化したものだよ。

※TMO:タウンマネージメントオーガニゼーション



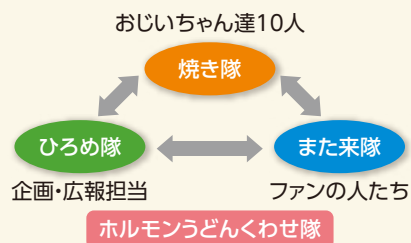
## みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする  
取り組みを紹介します。

### 佐用町から発信！ ソウルフード「ホルモンうどん」

牛ホルモンとうどんを鉄板で焼き、つけだれで食べるのが佐用町の「ホルモン」である。戦後、下町のおばあちゃんが営むホルモン屋は、鉄板一枚をいろんな人々が囲む「コミュニケーションの場」になっていた。

「ホルモンうどんくわせ隊」は全国に佐用町の「ホルモン」を発信している。実際にホルモンを焼く「焼き隊」は平均年齢76歳のおじいちゃん達10人だ。もともと料理経験のなかった彼らだが、今年年間三十数回さまざまな所に出向き、ホルモンを焼いている。今年5月のB1グランプリ in 姫路(地区大会)にも出場したおじいちゃん達は、「ホルモン売ってるんやないで。佐用町を売ってるんや」と主張する。「ひろめ隊」隊長の千種さんは、「グルメをキーワード



## 兵庫県ご当地グルメ連絡協議会

～グルメをキーワードにまちおこし！～



兵庫県ご当地グルメ連絡協議会 会長  
ホルモンうどんくわせ隊「ひろめ隊」隊長 千種和英さん

### 人とのつながりが 力を発揮する

ホルモントンどんくわせ隊名誉隊長でもある。  
東日本大震災直後、千種さんは一昨年の水害の時に励ましてもらった南三陸町の商店街の人たちが気にかかっていた。3月20日、ようやく電話がつながり「お返しに何かさせてね」と話した。

3月23日出発の兵庫県ボランティア先遣隊が宮城県松島町で炊き出しをすることになり、南三陸町ではないが、千種さんは協力を志願。出発まで一日半、豚汁に入れる大量の野菜

ードにしたまちおこしであり、兵庫県にも協力をお願いしたい」と語る。ちなみに「また来隊」の隊長は、井戸敏三兵庫県知事であり、

を準備してくれたのは佐用町の高齢者だった。新長田はカレーを準備、三田のメンバーには現地での調理をお願いした。千種さんはネットワークの力を実感したという。南三陸町で炊き出しを行う4月19日出発の兵庫県ボランティアバスにも参加し、「南三陸町のために何かしたい」という千種さんの思いは叶えられた。

### 取材を終えて

津波による甚大な被害を受けた南三陸町では、商店街の方々から率先して地域のお世話をされています。今回、兵庫県ご当地グルメ連絡協議会はネットワークを利用して、「炊き出し」という形で南三陸にお返しことができました。商店街を中心にした日ごろの地域づくりが、災害時に力を発揮することと、ネットワークの大切さ・素晴らしさを実感しました。災害をバネに、商店街パワーでますます町を元気にしてくれるでしょう。

兵庫県ご当地グルメ連絡協議会  
☎0790-82-2305